

第3号

2024  
9.20 発行

# 所報 いぶり

胆振教育研究所



CONTENTS

▶ 研究委託校・実践校の紹介

▶ 夏季研修講座実施報告

## 研究委託校・実践校の紹介

公開研究会

11/1  
(金)

### 安平町立早来学園

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを通じた資質・能力の育成  
～学習環境の効果的な活用による、対話的な学びの実践を中心として～



1年朝のミーティング  
教室にある小上がりで朝のミーティングをしているところ



7年技術科  
「材料に適した加工方法」  
工作室で木工をしているところ

本校は開校2年目の義務教育学校です。「対話的な学び」を求めて、ユニークな研修を展開しています。同じテーマのメンバーで行うグループ研修、地域の方や職員が講師となるミニ研修、いつでも授業を参観するふらっと参観など、私たちは常に学びあうことができます。

また、義務教育学校の特徴を生かし、1年生から9年生(中3相当)の先生が授業を交流し、発見、刺激し合っています。そして、教室デザインやICTの教育環境をどのように活かすのか、互いのテクニックと工夫を交流しながら教師の資質・能力の伸長を目指すのが本校のスタイルです。

公開研究会

11/15  
(金)

### むかわ町立穂別小学校

楽しみながら「わかる・できる」子の育成  
～授業のUD×ICTの活用を通して～



2年国語科  
「みの回りのものを読もう」  
タブレット端末を活用し、画面共有しながら、振り返りシートに記入しているところ



3年国語科  
「仕事のくふう、見つけたよ」  
友だちと報告文を共有し、修正しているところ

本校では、『楽しみながら「わかる・できる」子の育成～授業のUD×ICTの活用を通して～』を研究主題とし、全教科において授業改善を行っています。

昨年度の研究では、既習事項を活用する力と学び合い活動に重点を置いた取組を行ってきました。

その成果と課題を生かし、今年度は視覚化、焦点化、共有化を図ったUDの視点からの授業改善や、振り返りシートをはじめとしたICT活用を重点に、研修を深めています。

公開研究会

11/15

(金)

## むかわ町立穂別中学校

自己調整し学び続ける生徒の育成

～指導と評価の一体化×ICTの活用～



1年総合的な学習の時間  
「校外学習の計画」  
各班の目標や活動計画を  
1人1台端末に入力し、グ  
ループごとに比較してい  
るところ



2年社会科  
「北海道地方」  
生徒が描いた北海道を撮影し  
てPadletに投稿し、比較してい  
るところ

本校では、各教科においてICTを積極的に利活用することが、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて効果的であると考え、授

業実践に取り組んできました。

4年計画の2年次となる今年度は、「自己調整し学び続ける生徒の育成」を目指して、ICTを効果的に活用して個に応じたきめ細やかな支援を進めています。

さらに、各教科の振り返りシートや家庭学習課題を個別にICT化するなど、新たな取組にも挑戦しています。子供の学びと教師の学びは相似形であることを踏まえ、教職員もPDCAサイクルに基づいて自己調整しながら研究に励んでいます。

公開研究会

11/15

(金)

## 伊達市立伊達小学校

伊達小学校に通う全ての児童に

「資質・能力」を身に付けさせる

本校では、『伊達小学校に通う全ての児童に「資質・能力」を身に付けさせる』という研究主題で、日常の授業改革を進めています。

これまでの教師主導の授業ではなく、子どもに預ける場面や選択させる場面を増やすことで、児童が主体的に学び取る授業への転換を目指しています。

全体研修や授業公開を行い、協議を重ねることで、全教員が共通の意識をもてるようにしています。

学年や個人でトライしたことを共有しながら、伊達小学校としてのスタイルを作れるよう研修を深めていきます。



2年国語科  
「メモをとるとき」  
スクールタクトを使い、友  
達と考えを伝え合っている  
ところ



4年算数科  
「小数」  
自力解決の場面で自分に合っ  
た学び方をしているところ

公開研究会

11/18  
(月)

## 白老町立竹浦小学校

学びの自走を目指して

～個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実～



3年社会科

「店ではたらく人と仕事」  
チラシを見て気付いたこと  
を、打ち込んでいるところ



5年算数科

「小数のかけ算」  
デジタル教材を選択し、学んで  
いるところ

本校は全校児童22名の小規模校であり、全学級で複式授業が展開されています。

複式授業では、子どもたちが自分で学習を進める場面が多いことから、「学びの自走」をテーマに掲げ、多様な学び方を身に付けて主体的に学習する子の育成を目指しています。

特に意識していることは、ICTを有効活用し、学びの自走を支える環境を整えることです。各種Googleアプリ等を学習場面に応じて活用し、自分で学び方を選択したり、他者の考えを取り入れたりして学習を進めることを心がけ、日々の授業を行っています。

公開研究会

11/22  
(金)

## 豊浦町立大岸小学校

主体的・協働的に学び合う子どもの育成

～小規模校ならではの「個別最適な学び」と  
「協働的な学び」の一体化を目指して～



1年国語科

「大きなかぶ」  
動作化によるイメージ作り  
をしているところ



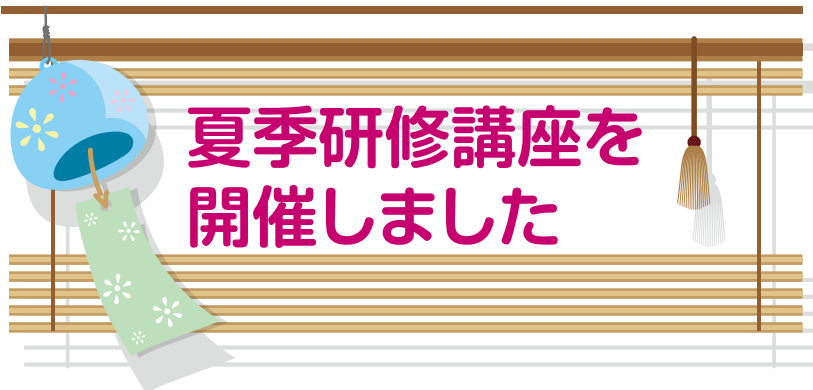
4年算数科

「1億をこえる数」  
リーダー学習による協働的な  
学びをしているところ

本校の研究は、研究主題を「主体的・協働的に学び合う子どもの育成」として3年次を迎えています。より児童の実態に沿った校内研修を進めていくために、副題を～小規模校ならではの「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を目指して～と設定しました。

特に今年度は、特別支援の視点に立った児童理解と具体的な支援を日常的に授業で生かしていくことで、副題に迫ろうと教職員一丸となって取り組んでいるところです。





# 夏季研修講座を 開催しました

7月31日(水)、夏季研修講座を開催しました。今年度は、登別市立富岸小学校で複線型授業を実践されている宇南山大輔先生をお招きして、「一人一人の子どもを主語にした授業づくり」と題し、お話をいただきました。

講座内容の一部についてご紹介します。

## 「どうして複線型で行うのか」

- ・時代が変わってきているから
- ・子どもの Well-Being (ウエルビーイング) を高めるため
- ・自己調整能力を身に付けるため
- ・自己指導能力を身に付けるため



複線型の授業は

「子ども一人一人の願いや思いを中心に、  
子ども自身がどう学ぶかを選択し続ける授業」

→子ども自身が学習の中で、自己調整を繰り返し、個別最適なやり方を見つけ、学習を自ら個性化させていく。

## 子どもが調整の主体になるように移行する4ステップ

- 1 学び方を見て知る・理解する (手本を見せる)
- 2 学び方を実際にやってみる (支援をする)
- 3 学び方を自分の力で計画・遂行 (支援をする)
- 4 学び方を自分の力で計画・遂行・振り返りをして調整 (教師は相談役になる)

4つの段階を踏んで自走することができるようになる。



他にも、授業のデザイン方法や、子どもの変容などについてお話ししていただきました。胆振教育研究所のホームページから夏季研修講座のまとめを見ることができますので、是非ご活用ください。

胆振教育研究所では、先生方に役立つ研修を企画しています。次回の冬季研修講座では、1月8日(水)に、「家庭学習の導入・やる気を上げる取り組みませ方(仮)」を予定しています。

ぜひご参加ください。

